

令和6年度 大阪府立摂津支援学校 第3回 学校運営協議会 実施報告書

1. 日 時 令和7年2月26日(火) 10:00~12:00

2. 場 所 本校 会議室(中高等部棟2階)

3. 出席者 <学校協議会委員>

荒木 寛巳(森ノ宮医療大学教授) 大矢 優子(摂津市教育委員会 教育委員)

松元 広美((株)ダイキンサンライズ摂津 総務課長)

佐藤 裕子(茨木・摂津障害者就業・生活支援センター所長)

林 義平(摂津市鳥飼上自治会 会長) 久保田 夏美(本校保護者)

<摂津支援学校>

校長(村上) 教頭(和田・竹内) 事務長(川野) 首席(岡村・三牧・坂部)

首席兼教務部長(日高) 部主事(新地・沖・眞壁)

<傍聴者> なし

4. 年間テーマ及び協議事項 「子どもたちの自己肯定感を高める教育をめざして」

主な内容 ①令和6年度学校経営計画 総括 ②令和7年度学校経営計画(案)
③学校教育自己診断について ④令和6年度卒業生進路状況

5. 説明、質問、協議内容等

(1) はじめに [進行: 三牧] [記録: 日高]

- ・配付資料確認 (追加資料「摂津支援学校の四本柱」)
- ・校長あいさつ

本日は令和6年度の総括及び一年の振り返りをさせていただく。令和7年度の計画については、各部署の担当者と分担しながら作成した。その他、学校教育自己診断アンケート結果や進路状況について報告させていただく。

(2) 学校より報告及び協議 [進行: 会長] (※質疑応答を併せて記載)

①令和6年度 学校経営計画の総括について

【 1 安全・安心の教育を進める学校 】

(1) 人権尊重の教育と推進

- ①[人権教育の推進] ワークショップ型の教員研修を実施。少数班でテーマに沿ったディスカッションの中で率直な意見交換ができた。予定時間を延長する活発な議論となり同僚性を高める機会にもなった。
- ②[自己肯定感を高める教育の推進] 学校経営推進費で中庭に遊具を設置、小学部段階から物に関わり、体を動かして遊び、自分の意思を伝える力の育成をねらいとした。

(2) 校内支援活性化

- ①[不登校児生支援] 学年や学部をこえてチームとして取り組み、継続的支援ができる体制をとっている。放課後登校やオンラインでの対話、授業の部分的参加等も実践。地域機関とも連携している。
- ②[虐待の早期発見] 気になる児童生徒は担任が心身の健康状態を毎日チェックしている。関係機関と連携して支援体制をとった例もある。

- ③〔ポジティブ行動支援の実践研究〕 強度行動障がいと称される特性の児童生徒について、外部講師に依頼し児童生徒のモニタリングを実施。支援方法を考える機会になった。成果を学校全体で共有していくことが今後の課題。

(3)危機管理体制

- ①〔引き渡し訓練〕 通学バス利用や自家用車乗入れの有無等、今後も様々なパターンでの訓練を想定。
④〔個人情報保護に関する取組み〕 個人情報に関する規定の運用方法を考えていかなければならない。
仕分け封筒の色分けや通学バス内での管理場所の指定、紛失防止のチェーン等の工夫を行っている。

【 2 「わかる授業」「良い授業」を追求する学校 】

(1)授業力向上

- ①〔新シラバスに基づく授業計画の徹底〕 5か年計画4年めで、ほぼすべてのシラバスを完成させた。教育課程編成上で欠かせないシラバスは、学校の財産になっていくので意義があった。
②〔「主体的・対話的で深い学び」の観点での授業改善〕 今年度は「授業振り返り週間」を導入、振り返りシートを活用してフィードバックを行った。

【 3 地域で学び、地域とともに育つ学校 】

(1)卒業後を見据えた学習

- ②〔学校間交流の充実〕 中学部では全学年が摂津市内の中学校と交流を実施、また学校祭では交流時の感想文や交流校の美術作品等を掲示・展示することもできた。

(2)地域交流活動

- ②〔地域住民との交流〕 摂津ロータリークラブ会員と高3生徒がグラウンドゴルフで交流。また高等部スポーツ同好会に試合用ユニフォームを寄贈していただいた。
(3)センター的役割 教材展示会の満足度100%を達成した。

【 4 組織力の向上 】

- (2)働き方改革の推進 時間外勤務時間は府立学校で平均18時間のところ、本校13時間となっている。ノー会議デーの設定や、会議の精選の成果が出ている。

【 5 新しい教育課題・組織課題への対応 】

- (1)2025大阪関西万博と連動した教育 次年度、中2が宿泊学習で万博会場へ行く予定である。
(2)高等部教育課程再検討 特に職業コースで、どのような内容をどのような環境で学ぶのか等を考えながら検討している。また今年度から、入学決定検査の出願がオンラインとなった。

《質疑応答》

- 【委員】とても丁寧に児童生徒たちにとって良い環境づくりを推進している。強度行動障がいへの支援についても良い取組みとを感じる。新遊具のアンケート結果は児童のものも出ているか。
【教員】児童については2月末までが回答期限で、現在アンケート集約中である。
【委員】働き方改革についても良い結果だと思う。同僚性について学校目標の「笑顔きらめく元気な学校」には、子どもだけでなく先生の笑顔も含まれると記憶している。先生達が楽しそうだと子ども楽しくなるというセオリーがあるので期待している。

- 【委員】働き方改革については、どの学校でも時間外勤務が減っているが、ストレス度は上がっている。
- 【校長】ストレス度チェックでもストレス度が前年度より上がっている。今年度は日を決めて校長室を開放し先生方に自由に来ていただいた。また学期に一回「摂津サークル」を開催し、教員同士の交流を促したりもしているが、この件については今後の課題である。
- 【委員】先生の元気が子どもの元気につながる。丁寧な授業準備や生徒対応等をしつつ、先生たちも元気になるように働く環境を整える必要がある。
- 【委員】丁寧な実践や対応に感心した。人権尊重について、ワークショップ形式の研修は良い取り組み。不登校については、企業等でも出社しない人が増えている。学校に限らないテーマであり、組織としての対応について検討が必要。
- 【委員】人権尊重については教員の肯定率は100%であってほしい。小学部が新しい遊具で自己肯定感を培っていくことは分かったが、中高等部ではどのような実践をしているのか。また高等部教育課程再編成は、時代に即してか、それとも学校の現状を鑑みてか。
- 【委員】新しい遊具について本校中高等部も活用するか。
- 【校長】遊具活用は小学部に特化している。他学部ではHR等での役割分担、授業内で褒められたり認められたりすることを通して自己肯定感を高められるようにしている。
- 【委員】高等部教育課程再編成について、地域校でも支援を必要とする児童生徒が増えている。そのような中で中学校卒業後の進路は選択肢が増え、多岐に渡っている。また高等部卒業後すぐに就労せず、ゆっくり自立訓練等で力をつける場合もある。摂津支援の職業コースの在り方も、地域や社会の変化に伴って多様化していく必要がある。
- 【委員】教員の事務処理と児童生徒対応の比率は、どのようなものか。
- 【校長】学校経営計画については、基本の作成者は校長だが、各項目については各部署に割り振って当学校運営の一員として作成に関わっている。また府のアンケート調査等の依頼も年々増加しているので、担任業務や授業以外の事務作業は非常に多い。
- 【委員】教員の休憩時間は地域校だと給食時間だが、支援学校は下校後になる。日中は常に児童生徒対応をしている状態。また支援学校は小中高3校が一緒にある状態なので、3学部での情報共有等の会議が発生する。支援学校は授業だけがすべてではなく、生活全般を児童生徒と一緒に過ごすので、授業中にすべての業務を終わらせることが難しいかもしれない。
- 【委員】ICT活用について、参観でも児童が和気藹々と参加していて、楽しく分かりやすい授業だった。働き方改革について、教員の事務作業が増えている点が気になった。時間外勤務が減っている一方ストレス度が上がっているので、教員が働きやすい環境にしてほしい。
- 【委員】教員が休暇になるとその教員分の業務を周囲がフォローすることでさらに業務量増え、フォローに入った教員がまた休暇に入るような悪循環がある。近年どこの学校でも代替教員が見つかりにくい。教員に健康で元気にいてもらうことが大切である。

②令和7年度 学校経営計画(案)

【 1 児童生徒、保護者、教職員、地域にとって安全で安心な学校づくり 】

- (5) 働き方改革では同僚性を高める取組みを記載した。ストレス度チェックを経年比較したが、令和4年度のストレス度が低かった要因は、コロナ禍で様々な行事等が縮小されていたからかもしれない。

【 2 知的障がい支援学校としての専門性・指導力の向上 】

(4) 若手教員が増えており、先輩教員からの指導が不十分にならないように校内体制を整えたい。

【 3 キャリア教育を柱とした、小学部・中学部・高等部の連携を深め】

(3) 卒後すぐの就職でなくても見通しをもった進路決定が重要。高等部の教育課程再編成に生かしたい。

【 4 地域に愛され、地域の中で育つ「開かれた学校」の構築】

(4) アンケートの諸項目で「わからない」という回答が多かった。学校として情報発信が不足している。
しっかり情報発信をしていきたい。

【 5 新しい教育課題・組織課題への対応】

(3) 地域支援では地域校の個別の相談対応だけでなく、今後を見据えて各市の中で支援教育を推進できる人材を育成し、点から面への支援をしていきたい。

《質疑応答》

【委員】 4つの柱に「摂津支援は1つ」とあるがそこにPTAも一緒に入ることができれば更に良い。学校だけでなくPTA・保護者と一緒に子どもたちの成長に携わっていければよい。本案で承認とする。

③学校教育自己診断アンケートについて〔担当：坂部首席〕資料③

《質疑応答》

【委員】 アンケートを家庭で実施した意図はどのようなものか。

【教員】 資料の冒頭に記載しているとおり、2種類のアンケートが含まれているので、家庭でまとめて実施していただくことになった。

【委員】 今後もこの方法が続くのか。

【教員】 その予定である。経過、推移を見ていきたい。

【委員】 自由記述欄について、こういう場でしか自分の思いを伝えられない人もいる。保護者からのある種のSOSと思う。何か学校からフィードバックをしているか。

【教員】 人権関連アンケートでも意見はあった。個人特定は難しかったので、学校として改善できるように職員会議等で共有している。

【委員】 相談窓口等の案内があればよいのではないか。

【委員】 他校では、アンケートをICTに変更し途端に提出率が急激に落ちた。摂津支援は保護者の提出率がかなり高い。逆に教員の提出率が100%ではない学校は摂津支援ぐらいである。

【教員】 アンケートを教員全員に再送したり、チェック表での提出チェックもしたが、この結果だった。

【教員】 学校の様子を伝えきれていないと感じる。また回答方法変更による提出率の減少もあったと思う。
いじめアンケートは、児童生徒に担任が一人一人丁寧にアプローチするなどの対応をしている。

④令和6年度卒業生進路状況

●中学部の進路について

今年度3年生35名中34名が支援学校高等部、1名が専修学校に進学予定。中学部卒業後の進路先についても選択肢が増え、多岐に渡るようになってきたのでいねいに対応していきたいと考えている。

●12期生進路状況について

今年度高等部3年生は36名で、進路先は就労が2名、訓練校1名、就労継続A型2名、就労継続B型8名、自立訓練10名、生活介護9名、就労移行2名、その他在宅2名。この学年の職業コース生は3名で、企業

実習等を通して順調に就労の力をつけていたが、ご家庭の希望からA型利用・訓練校入学と、卒後もう少し時間をかけることになった。就職者数は例年の5・6名と比べると少なめ。社会の状況として、障がい者雇用枠は増加しており各企業から求人のご要望をいただいている。今後も就職指導にも力をいれ、会社で活躍できる人材を育てていきたいと思う。

一方、事業所等を選ぶ生徒達も多岐に渡る進路選択をしている。近年は就労継続支援B型利用や自立訓練へ進む方が多い傾向にある。ご家庭としては卒業後、「少しでも仕事をすることで社会や地域で貢献しつつ居場所を作っていきたい」「学校に似たプログラムのある自立訓練の事業所で生活力を向上させ、いろいろな経験を積ませたい」等のご希望がある。学校は保護者の希望や本人の思いを丁寧に聞き取り、2年次から体験実習で実際に事業所を経験してもらい、マッチングしている。進路先が「その他」の2名は長期欠席生徒で、卒後すぐの事業所利用は考えないというご家庭の希望もあり、進路先としては未定。それぞれの在住市の相談支援事業所や市役所の担当部署には状況説明をして、引き継ぎを行っている。

●離職状況

11期生（昨年3月卒業）に関しては卒業時の就職が7名、うち1名が体調不良のため7月に退社し、今はB型事業所で就労に向けて頑張っている。近年卒業後10年を超える卒業生も出てきて、在校生の実習で会社訪問すると、卒業生達がそれぞれしっかりと仕事をして、社会の一員として頼られる存在となっている場面に出会うようになった。就職だけがゴールではないが、自分に合った仕事や過ごしたい場所でいきいきと生活できるようにサポートしていきたい。

《質疑応答》

【委員】卒業後に職場でうまくいっていないケース等の最近の傾向はどのようなものか。

【委員】企業での受け入れ数は増えているが、それだけの力をもっている人材が少ない印象。また就ポツに繋がらない生徒が多く、退社寸前で職場や学校から連絡がある場合もある。就ポツ等の支援者より昔からの繋がりのある学校に卒業生は連絡をしやすいのかもしれない。

【委員】大学等でも障がい者受け入れの枠は広がっているが、実際には合理的配慮が整っていない場合がある。間口は広がっても、同じ職場で働く一員として考えてもらえるかが課題である。

【委員】不登校生徒で進路先がアニメーション関連とあったが、どのような様子だったか。

【教員】本人が希望した。学校は欠席していたが、学校を通して実習には参加でき進路決定に至った。

【委員】得意なこと、好きなことを見つけれられるのはとても良いこと。中学部段階くらいから自主通学をする力も培わないといけない。高等支援等に進学する場合は自主通学が必須。中学部卒業後の進路選択は変わってきているので、学校も進路の多様化について考えていかなければならない。

【委員】非認知能力をつけることは大事なこと。自分のことを自分で決める力をぜひ育てていただきたい。

【委員】次年度に向けて、より良い摂津支援学校になるように委員も含めて発展をめざしたい。

(3) まとめ

【校長】素通りしかけていた課題点へのご指摘に感謝したい。学校は、流動性がある集団がいかに目標に向かって一緒に歩んでいけるかが課題である。働き方改革と言われているが、その中で教員自身が責任をもって職務にあたることも忘れてはならない。アンケート提出率が100%ではなかったことは、その1つの現れと感じている。教員の責務として取り組まなければならないこともある。今後ともよろしくお願いいたします。

(4) 諸連絡 省略